

田の神招く掛け声



運動会で踊りを披露する児童たち

伝えたいふるさとの文化

田之畑棒踊り

「ハーヤーハーハ。サッカー サッカーイヤサ」。からっと晴れた秋空の下、指宿小学校の校庭に掛け声が響き渡ります。赤いはちまきをした5・6年生が列をなし、音楽に合わせてゆつくりと行進してきました。いよいよ、指宿小5・6年生による「棒踊り」が披露されます。指宿市内に伝承される棒踊り

は、もともと田植えの時に、田の神を招くための田歌だったといわれています。この動きに棒術が加わり、激しい打ち合いの棒踊りになりました。今のよう

な棒踊りが成立したのは、江戸時代の初期から中期のことと考えられています。この棒踊りが、指宿小学校の運動会で踊られるようになった

のは、1982年に当時の校長先生が小学校の「特色ある学校づくり」のひとつとして、運動会で踊ることを提案されたのがきっかけです。指導をお願いしたのが、田之畑の棒踊り保存会の方でした。

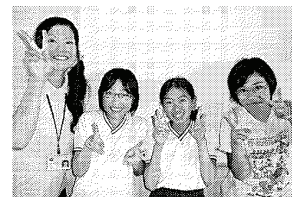
田之畑の方々には、毎年運動会前に指宿小学校に来て、棒踊りの指導をしていただきます。自らお手本を見せ、細かいところまでアドバースしてくださいます。どんな思いで子どもたちに教えているのか、保存会の方に取材してみました。

「昔は、衣装を身に着けて田之畑のおじちゃんたちも、運動会では子どもたちと一緒に棒踊りを踊っていたんだよ。本当は4番まで棒踊りはあるけど、小学校で教えるのは1番だけ。5・6年生が元気良く踊ってくれようね」

5・6年生と一緒に踊る棒踊り。6年生に取材しました。

「5年生の最初は最初は頭をたたかれないかなど、少し恐怖感があったけれども、練習を積み重ねてきて、今はグルーブのみんなとも息があって、楽しく踊れるようになりました。今年は6年生だから、5年生にしっかり教えてあげたいです」

こうして毎年踊り継がれていく指宿小学校の棒踊り。田之畑の方々の思いや、今まで棒踊りを踊ってきた先輩方の伝統を引き継いで、私たちが棒踊りを踊ります。これからも、指宿小学校で大切にしていきたいです。



で、踊ることがますます楽しくなりました。私たちは、今回で棒踊りを踊るのは最後でした。みんな心をつなげて、精一杯踊りました。練習を積み重ねてきた成果が出て、とても楽しく踊ることができました。今まで、引き継がれてきたこの伝統をこれからも下級生に引き継いでいってほしいです。そして、いつまでも踊り続けてほしいです。

指宿市立指宿小学校

私たちの指宿小学校は、薩摩半島の南端、指宿市の北部にあります。本年度創立141周年を迎え、県内でも伝統ある小学校の一つです。校長室には、東郷平八郎が書いたとされる深紅の校旗が飾られています。児童数は281人です。

校区は、指宿市荊野の地で、明治・大正時代は文化、商業の中心地でした。国の有形文化財に登録されている「かんかいてい」と呼ばれる防波堤や、築100年以上の歴史を持つ商家、名岩永三三郎が建設したといわれる「湊川橋」など、面影を随所に見ることができます。学校自慢を3つ紹介します。1つ目はあいさつ運動です。あ

歴史と自然に囲まれ



いさつ日本一の学校にしよう」を合い言葉に、「頭を下げて」「立ち止まって」「名前をつけて」「元気よくあいさつすること」を目指しています。誰にでも明るく元気になれるようになつてきました。

2つ目は「なかつ川」です。1999年におおしじの会のみな

私たちが取材しました

取材記者 6年：形部萌絵、森川夏美、諸留綾美▽指導：梶井律子教諭

今まで、私たちは棒踊りのことを何も知らずに踊っていました。今回、棒踊りの歴史について調べ、たくさんの方の話を聞きました。棒踊りに込められた長い歴史と伝統を知ること

さまに作っていただきました。コイやエビ、タニシ、カニなどが生息するビオトープです。大きなウナギを見つけたという友だちもいます。1年中清らかな水が流れ、指宿小学校のシンボルとなっています。

3つ目は、校舎3階の音楽室からの眺めです。鹿児島湾や知林ヶ島、そして大隅半島まで見渡すことができます。春からは、青い海と空をバックに白黒ツートンカラーのJRLいぶたま号が学校のすぐ前を通過します。

私たちは、歴史と伝統のある指宿小学校の子どもであることに誇りに思っています。これからも郷土を愛し、友だちと仲よく勉強や運動に励んでいきます。